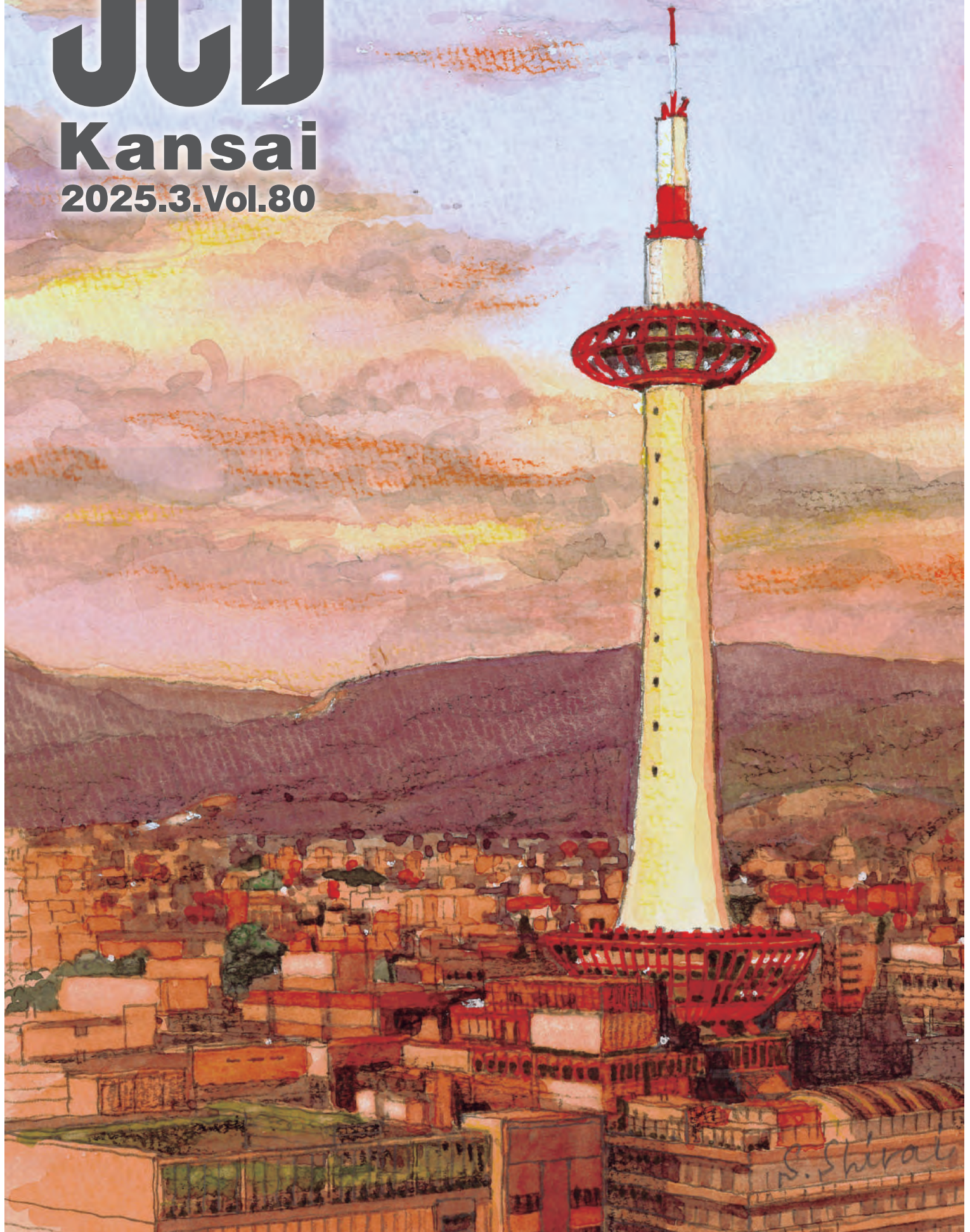


JCD

Kansai

2025.3.Vol.80





まちなかの灯台 京都タワー（夜景）

ランドマークとしての【三大タワー】

身近なところでJCDと時を同じくして、60周年を迎えたのは、【関西の三大タワー】だ。それは、当時東京オリンピック開催に沸き返る街のランドマークとして同じ時期に建設されて、今も人々から愛され続けている。

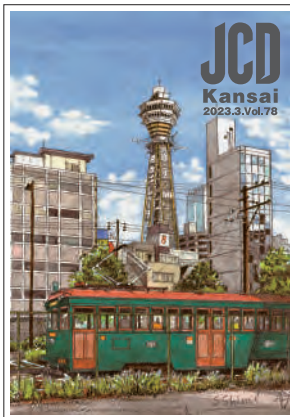
1つ目はなかでも少しばかり先輩格にあたる新世界の2代目「通天閣」、2つ目は神戸の港を彩る鉄塔の美女と呼ばれる「神戸ポートタワー」、そして3つ目は海のない京都の街を照らす灯台としてそびえたつ「京都タワー」だ。

「JCD Kansai」の表紙に連続して取り上げてきた、この【三大タワー】は、それぞれ60年という長期間常に私たちの活動する街を見守り続けてくれた。

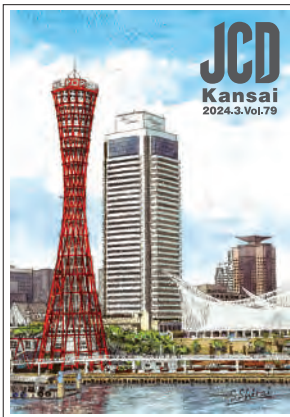
かつて暴動が多発しディープゾーンであった新世界が、クリーンで《OMOしろい街》に変わり行くように、そして時には阪神淡路大震災復興への《希望の灯》を絶やすことなく灯し続けたように、またその一方で「夢の波」に喩えた瓦屋根が木造住宅と共に消え行き、近代建築へと変容しつつある京都の街にも絶えることなく《まちなかの灯台》として美しく輝いていてほしいとおもう。

こうして街のランドマークとして三都市に定着した【三大タワー】が迎える次の70周年を、そしてさらに重ね続けるであろう周年行事を私たちJCDと共に仲良く末永く寿ぎたいものである。

評議員 白井 進



旧恵比寿町駅風景

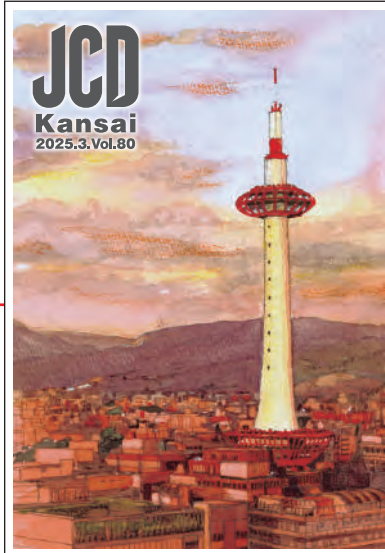


60周年を迎えるポートタワー



2025.3 Vol.80

(一社)日本商環境デザイン協会 関西支部
JCD kansai 2025年3月 第80号



〔表紙・水彩画〕

「まちなかの灯台 京都タワー」

評議員 白井 進

報告

JCD関西支部活動報告

2025年度活動予定 ————— 中村 裕輔 02

支部長会議 ————— 東 潤一郎 03

特集

日本空間デザイン賞2024

KUKAN OF THE YEAR 日本経済新聞社賞3作品が決定

グランプリ・金賞受賞作品紹介 総評・審査員選評 ————— 山本 尚美／鈴木 康広／芦沢 啓治 他 04

特集

JCDプロダクトオブザイヤー2024

上位製品紹介及び審査評 ————— 窪田 茂 他 08

連載

NEXT GENERATION

修成建設専門学校 空間デザイン学科の2024年度トピックス ————— 鍵谷 啓太 10

Working Now

新入会員紹介 ————— 春名 伊佐也 11

報告

委員会活動報告

WIW KOBE 2024 USD-Oデザインカンファレンストーク&モノ・空間デザイン学生プレゼンテーション ——— 斉藤 俊二 12

残暑払いビアパーティ「さらば猛暑!」 ————— 高橋 健太 13

2024 JCD kansai クリスマスイベント「たまには気軽にVOXX NIGHT」

NEXT GENERATION TALK NIGHT デザイナーとメーカーの新しいカタチ vol.4 ————— 鍵谷 啓太 14

JAPAN SHOP 大阪 2024 ————— 斉藤 俊二 16

第16回 大阪市あきないグランプリ ————— 山田 悦夫 17

2025年 3月号 vol.80 令和7年3月発行

【発行元】(一社)日本商環境デザイン協会 関西支部 〒541-0055 大阪市中央区船場中央1-3-2-101 船場センタービル2号館1階 (一財)大阪デザインセンター内 TEL.06-6265-2260 FAX.06-6265-2270

総括委員長／斉藤 俊二 広報委員会:委員長／中山 拓 村田 みどり 制作:グラフィックアーツ ベルテ

2025年度活動予定

関西支部 支部長 中村 裕輔

- USD-O 大阪デザイン団体連合の取り組み(万博委員会etc.)
- 関西支部・各委員会の合同委員会の実施(月1回以上)
- 機関誌「JCD kansai」の発刊

4月	機関誌「JCDkansai」の発刊
5月31日	定時総会の開催 翌6月1日に「大阪ツアー」の開催
6月11日	USD-O主催「WIW KOBE」の参加 神戸ハウジングデザインセンター大ホールにて開催・斉藤氏が登壇予定
6月	NEXT GENERATION「学生とメーカーのコラボレーション」最終発表
7月10日～11日	JAPAN SHOP 大阪の出席 インテックス大阪で開催のジャパンショップへの協力・USD-Oブースでの展示
9月	「デザインウィークエンド大阪」にUSD-Oとして出展
9月	修成建設専門学校「インテリアデザインスケッチJCD賞」の審査
12月	mebic主催「空間プロデュース展AUTUMN」の参加 大阪産業創造館にて開催・DSA関西と共同展示
12月3日	クリスマスイベント開催 賛助会員新商品説明会
1月	絵馬展の開催 大阪デザインセンターにてUSD-O 主催にて開催
1月	大阪市商店会総連盟主催 大阪市あきないグランプリ表彰式 JCD賞の表彰
2月	修成建設専門学校 卒業計画審査・学科編成会議への参加
3月	「日本の空間デザイン」アワード作品展示 JCD,DSA,SDA,JIDの合同展示
未定	住まい情報センタータイアップ事業 「みんなで創る商店街」「出前授業・みんなで創る商店街」にて 子供の模型創りのワークショップ／依頼学校を募集中

2025年度 (一社)日本商環境デザイン協会・関西支部 組織表 (3月31日現在)

JCD関西支部 支部長		中村 裕輔	
JCD関西支部 理 事		東 潤一郎	
JCD関西支部 統括委員長 USD-O大阪デザイン団体連合会長兼務		斉藤 俊二	事務局 (一財)大阪デザインセンター odc@osakadc.jp
NEXT委員会		イベント実行委員会	広報委員会
委員長 高橋 健太		委員長 鍵谷 啓太	委員長 仲 達則
倉知 優歌・栗元 奈緒子 中島 裕子・春名 伊佐也		白井 進・岡部 清一 都田 香・盛 世匡	村田 みどり

支部長会議

理事 東 潤一郎

2024年11月29日、大阪で全国支部長会議が開催され、各支部支部長が集まり、それぞれの活動や今後の方針について討議されました。

1. デザインサーキット開催予定

各支部の開催スケジュールを確認し、今後4年間は同じテーマを継続し、5年目に変更することを決議。

2. 総会・支部長会議の開催地

今回の総会は大阪で開催予定だが、万博開催の影響で宿泊施設が混雑するため、早期予約を推奨。関西支部では布施の商店街を活用した宿泊施設を仮押さえ済み。

3. 副支部長の再提案

来年2月の理事会で関東支部を除く各支部の副支部長の承認を再提案。支部長代理の交通費支給も検討。

4. 会員増強について

各支部の増員実績を報告。新規会員獲得のため、クリエイティブ分野の個人や企業内デザイナーへの勧誘を強化。

支部長会議
日 時：11月29日(金) 16:00～18:00
場 所：大阪デザインセンター
参加者数：18名(各支部:16名 関西支部:2名)
大阪ツアー
日 時：11月30日(土) 10:00～15:30
場 所：大阪レトロ建築&ショップツアー
参加者数：18名(各支部:12名 関西支部:6名)

5. その他議題

- ・デザインサーキットのテーマを「次世代と共に考える学びの場」とすることを提案。
- ・イーストギャザリングの日程と概要を報告。
- ・賛助会員勧誘パンフレットの改善を決議。
- ・プロダクトオブザイヤーの応募資格拡大や「マイスター制度」策定を提案。
- ・賀詞交歓会への地方支部長の出席支援について次回理事会で提案予定。

以上の内容が協議され、各支部の今後の活動方針が確認されました。



綱よし百番にて懇親会



浪速組本社ビルの見学



道頓堀川クルーズ



法善寺横丁

KUKAN OF THE YEAR 日本経済新聞社賞3作品が決定

在る美

山本 尚美

単に日本の伝統工芸の美しさを再解釈・再構成するだけでなく、美の本質を追求する行為として捉えた。「神は細部に宿る」という言葉を思い起こさせ、竹骨や糸に込められた作者の想いが映し出されているようだ。完璧で完成された美ではなく、不完全さの中に美を見出そうとする姿勢が感じられる。ディテールにこだわりつつも、全体として一つの造形にまとめ上げている。静寂の中にも、詩を詠むかのような動きのある作品に仕上がっている。

tobe

鈴木 康広

一見すると煉瓦造りの美術館建築を思わせるような外観が目立つ。思わず触れてみたくなる煉瓦の質感、周囲や小道を圧迫しない細かな配慮が建物全体に優しさを感じさせる。小部屋ごとに空いた隙間や道に沿った壁面によって、風通しのよい柔らかな境界線を描き出している。差し込む光や通り掛かる人の気配を招き入れ、住宅とギャラリー、生活とアート、プライベートとパブリック、それらを分けることなく和えるような、感性による「しきり」の提案が成されている。この敷地でしか生まれ得ない空間が立ち現れていることを評価した。

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト 芦沢 啓治

本プロジェクトは、実にシンプルなプロジェクトである。水路の柵を外して蓋を取り払い、デッキやベンチを設けて人と水との関係性をまちなかに取り戻すという試みだ。しかしながらこの簡単に思える、誰もが求めるであろう試みを実現することは現行の制度では困難を極める。おそらく蓋をするときは簡単にできたはずなのに、である。このスペースは、都市再生推進法人の前橋デザインコミッション（MDC）とデザイナーが理想を実現することの難しさから行政とタッグを組み、仕組みからつくることによってできた。その空間は、まるで昔からそうであったかのようにすでに定着している感があり、むしろなぜそれらができなかったのか、日本におけるアーバンデザインの問題が逆に浮き彫りにされるかのようなのである。日本において公共空間は、誰のためにあるべきなのかは実に曖昧である。多くの場合、公共空間を管理する人たちによって管理のしやすいものとなる。このプロジェクトにおいては、その管理においても官民で行うこととしている。また、改修や管理に関わるお金の多くが地元有志によって寄付されていることも特筆すべきことであろう。この意欲的なプロジェクトが地方都市における一つのモデルケースとなり、新たなプロジェクトの呼び水になればと心から思う。

日本空間デザイン賞 KUKAN OF THE YEAR / 日本経済新聞社賞 2024

在る美

金内 幸裕 / 資生堂クリエイティブ

Grand Prix



◆カテゴリ:ショーウィンドウ・アート空間 ◆所在地または展示場所:東京銀座資生堂ビル 資生堂バーラー銀座本店 ◆完成年月または展示開始日:2023-10-11 ◆ディレクション:金内幸裕 / 資生堂クリエイティブ ◆デザイン:伊藤愛希 / 博展 ◆クリエイティブディレクション:信藤洋二 / 資生堂クリエイティブ ◆設計・デザイン監理:鍋田知希 / 博展 ◆テクニカルエンジニアリング:三谷悠人 / 博展 ◆その他:熊崎耕平 / 博展、日吉屋 ◆施工:博展 ◆クライアント:資生堂 ◆撮影者:林雅之

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト

平賀 達也 / ランドスケープ・プラス

Grand Prix

サステナブルデザイン賞



◆カテゴリ:公共施設・コミュニティ空間 ◆所在地または展示場所:前橋市千代田町 ◆完成年月または展示開始日:2024-03-31 ◆ディレクション:前橋デザインコミッション[MDC] ◆デザイン:平賀達也 / ランドスケープ・プラス ◆ランドスケープデザイン:村瀬淳、坂本幹生 / ランドスケープ・プラス ◆テクニカルエンジニアリング:大波修二、浦西真維 / オリエンタルコンサルタンツ ◆施工:宮下工業 ◆クライアント:前橋市、前橋デザインコミッション[MDC] ◆撮影者:浜田昌樹

tobe

成田 和弘+成田 麻依 / kufu

Grand Prix



◆カテゴリ:住・生活空間 ◆所在地または展示場所:広島市南区 ◆完成年月または展示開始日:2023-03-11 ◆ディレクション・デザイン:成田麻依 / kufu ◆アートディレクション:島村文也 / 島工芸 ◆造園設計:長尾浩 / 長尾作庭研究所 ◆施工:新枝建設 ◆クライアント:島村文也 ◆撮影者:藤井浩司

金賞 Cloud Tea Room
JUNG Donghyun / PLAT ASIA



◆カテゴリー:エキシビション・イベント空間 ◆所在地または展示場所:XiSaiShanQian Resort, Huzhou, Zhejiang, China ◆完成年月または展示開始日:2023-10-30 ◆ディレクション:JUNG Donghyun / PLAT ASIA ◆デザイン:JUNG Donghyun / PLAT ASIA ◆スキーム設計チーム:Liu Guowei, Chen Yiyi, Li Manying, Lian Jingyun, Liao Yuanyu ◆施工:Hangzhou Weimu Architecture Design Co., Ltd. ◆クライアント:XiSaiShanQian Resort, Lu Yu Tea Cultural Campus ◆撮影者:YIXINJIA; Fan Xiaoxu

選評 内藤 純
中国・湖州市は山間の盆地で栽培される「安吉白茶」の産地である。その傾斜地の茶畑に170本もの柱がランダムに点在する。柱と柱の間に心地よい茶室空間がつけられ、柱は豊かな景観と相まって優しいリズムを奏でる。柱の形状や内蔵された霧発生装置の納まりも美しい。ミストインスタレーション演出は、白茶の一番の生産時期である春先3月、清々しく霞立つ季節を幻想的にそして鮮やかに印象づけている。

金賞 Syn: 身体感覚の新たな地平 by Rhizomatiks x ELEVENPLAY
真鍋大度 / アブストラクトエンジン



◆カテゴリー:エンターテインメント空間 ◆所在地または展示場所:TOKYO NODE 45F GALLERY A/B/C ◆完成年月または展示開始日:2023-10-06 ◆ディレクション:真鍋大度 / アブストラクトエンジン ◆デザイン:三藤 秀一 ◆クリエイティブディレクション:MIKIKO / ELEVENPLAY ◆テクニカルエンジニアリング:石橋素 / アブストラクトエンジン ◆ロゴデザイン:YOSHIROTTEN / YAR ◆照明デザイン:藤本隆行 / Kinsei R&D ◆ストーリー:上田誠 / ヨーロッパ企画 ◆プロダクション:アブストラクトエンジン ◆クライアント:森ビル ◆撮影者:本間無量

選評 谷川 じゅんじ
本作品は、XR技術やAI技術を駆使し、身体と機械、時間と人間の関係を探求した作品である。鑑賞者は物語の一部となり、ダンサーとの没入型体験を通じて、有機的な空間を形成する。フィジカルとテクノロジーの融合が、新たな視聴感覚を提供し、身体性が拡張される未来を示唆している。ストーリーテリングを超えたナラティブが生まれるこの作品は、現代の都市機能とアートを結びつけた革新的な試みである。

金賞 3dpod
一居康夫 / 大林組一級建築士事務所



◆カテゴリー:企業プロモーション空間 ◆所在地または展示場所:東京都清瀬市下清戸 ◆完成年月または展示開始日:2023-03-22 ◆ディレクション:木村達治 / 大林組一級建築士事務所 ◆デザイン:カピタニオ マルコ / 大林組一級建築士事務所 ◆建築設計:増村朗人 / 大林組一級建築士事務所 ◆構造設計:鈴木貴博 / 大林組一級建築士事務所 ◆設備設計:山形龍一、宮崎航太 / 大林組一級建築士事務所 ◆テクニカルエンジニアリング:坂上肇 / 大林組技術研究所 ◆施工:大林組 ◆クライアント:大林組 ◆撮影者:繁田諭

選評 アストリッド・クライン
「3dpod」は、多くの称賛すべき魅力をもっているが、特に地震の多い日本で、小規模ながらも建物全体を3Dプリントするという重要な課題に挑戦している点が素晴らしい。材料や構造、時間、コストの観点など多くのスマートな戦略が「3dpod」を効率的にしている。この技術の将来的な発展には大きな希望を感じさせてくれる。デジタル製造でありながら、壁のテクスチャは職人の手仕事のような手触りを感じさせ、「3dpod」の個性を引き立てている。今後、魅力的で手頃な住宅を提供するために、さらなる開発が進んでいくことだろう。この作品は、あらゆる支援を受けるに値する。心からの祝福を！

金賞 裏
久保寛人 / インサイドアウト



◆カテゴリー:ショップ空間 ◆所在地または展示場所:東京都渋谷区神宮前 ◆完成年月または展示開始日:2023-10-07 ◆ディレクション:三原康裕 / ソスウ ◆デザイン:久保寛人 / インサイドアウト ◆内装設計:久保寛人、イレーネ アロンソ / インサイドアウト ◆照明デザイン:種引良太 / HIBIKI, Inc. ◆ロゴデザイン:キギ ◆施工:イシマル+三保谷硝子店 ◆クライアント:メゾン ミハラ ヤスヒロ ◆撮影者:高山幸三

選評 Ed Ng
通常より低いところであって天井も低く、歩行者の目につきにくい一小売店にとって重大なこのような課題にあえてチャンレジした点において、大変ユニークな作品だ。この作品では、「レス・イズ・モア (Less is more)」の考え方を取り入れた、統制のとれたソリューションが巧みに提供されている。シンプルな岩のオブジェと店内の一番奥から延びる反射する箱の組み合わせが人の目を引き、好奇心をかきたてる。通りすがりの者でも思わず中を覗いて商品をチェックしてみたくなるような魅力があり、バランスも素晴らしい。感覚を圧倒することなく興味をかき立て、さりげなくインパクトある方法で商品を主役役にすることに成功している。

金賞 NOT A HOTEL ANYWHERE
元木大輔 / DDAA



◆カテゴリー:サービス・ホスピタリティ空間 ◆所在地または展示場所:宮崎県宮崎市青島 ◆完成年月または展示開始日:2023-04-29 ◆ディレクション:元木大輔 / DDAA ◆デザイン:元木大輔、万徳友里香 / DDAA ◆プロジェクトマネジメント:綿貫将、遊佐淳平 / NOT A HOTEL ARCHITECTS ◆ファブリックデザイン:Onder de Linde ◆アートワーク:滝沢広 ◆造園設計:天野慶、五十嵐千里 / Yard Works ◆施工:セットアップ ◆クライアント:NOT A HOTEL ◆撮影者:長谷川健太

選評 Ed Ng
従来のホテルとは一線を画すアプローチで、贅沢なおもてなしという普遍的な要素を取り入れながら、立地の重要性を強調している。モジュラーデザインがいにその土地にシームレスに溶け込んで地元の文化と共鳴するか、その可能性を示す高度な職人技だ。入念にデザインされたディテールにこだわることで、従来の宿泊施設の概念を飛び越え、訪れた人を「場所」と「結びつき」の感覚を体験する世界へと誘う。このような考え抜かれた組み合わせによって、「探ってみたい」「交わりたい」という無限の可能性が生まれ、訪れた人たちが自身の感覚で地域環境と関わることができる。その結果として生まれたのが、贅沢さと地域特性の両方を謳歌し得る旅の目的地だ。

金賞 HAIKOU GAOXINGLI INSUN CINEMA
Ajax Law & Virginia Lung / ONE PLUS PARTNERSHIP LIMITED



◆カテゴリー:文化交流空間 ◆所在地または展示場所:Haikou, Hainan, China ◆完成年月または展示開始日:2024-01-24 ◆ディレクション・デザイン・内装設計:ロゴデザイン・照明デザイン:Ajax Law & Virginia Lung / ONE PLUS PARTNERSHIP LIMITED ◆施工:Shaoxin Kangyin Acoustics Materids Co.,Ltd ◆クライアント:HAINAN XIN TIAN DI INSUN FILM LIMITED COMPANY ◆撮影者:Jonathan Leijonhufvud

選評 Ed Ng
レンガという見慣れた素材の使い方を見直し、斬新かつ魅惑的な方法で提示したデザインだ。とりわけ印象的なのが、従来は転換や玄関口のシンボルとして機能してきたアーチを、無限かつ不完全な形で組み合わせたこと。その中に映画という体験が見事に取り込まれ、観客を想像力豊かな逃避行の世界へと誘う。このようなデザインによって、視覚的に魅力的な環境が作り出されるだけでなく、映画館としての物語性も高められている。細部に至るまで細心の注意が払われ、照明を巧みに取り込むことで雰囲気を高めており、それによって、デザイン全体の質を高めるハイタッチな体験が提供されている。

金賞 BATHE YOTSUME BREWERY
林洋介 / フォーティーンストーンズデザイン



◆カテゴリー:食空間 ◆所在地または展示場所:東京都墨田区業平 ◆完成年月または展示開始日:2023-11-26 ◆デザイン:林洋介 / フォーティーンストーンズデザイン ◆クリエイティブディレクション:高橋理子 ◆施工:栗原内装 ◆クライアント:金沢浴場 ◆撮影者:神宮巨樹

選評 黒田 哲二
一番評価すべき設計ポイントは、醸造タンクの位置だと思う。セオリー通りでいけば、お店でビールを飲んでいての方が通りから見え、集客を誘導するつもりになると思うが、あえてファサードに面してタンクを設置することで、この店の地域におけるありがたい姿勢が伝わってくる。四ツ目通りに3軒の銭湯を運営されている方のお店と伺った。湯上りがりにビールを店名の通り「浴びる」楽しみが伝わる、ぜひ訪れてみたいお店である。

金賞 麻布台ヒルズ タワープラザ 商業エリア
助川結花子 / 乃村工藝社



◆カテゴリー:複合商業施設空間 ◆所在地または展示場所:東京都港区麻布台 ◆完成年月または展示開始日:2023-11-24 ◆ディレクション:小坂竜 / 乃村工藝社 ◆デザイン:助川結花子 / 乃村工藝社 ◆内装設計:藤中康平 / 乃村工藝社 ◆施工:清水建設 ◆クライアント:森ビル ◆撮影者:河野政人 / 森ビル

選評 黒田 哲二
石や左官、金物といった重量感のある「固い」素材を、布のように「柔かい」表現とし、トップライトから落ちる自然光と合わせて、中に入った方を優しく迎えられる空間ができ上がっている。柔らかな意匠を崩さない形で設備関連も計画されており、空間に一体感を与えている。画一的になりがちな共用部において上質な空間が計画されており、これからの商業施設の空間の質を考えるきっかけとなると思う。

金賞 ジンズホールディングス東京本社
高濱史子 + 小松智彦 / 高濱史子建築設計事務所



◆カテゴリー:ワークプレイス空間 ◆所在地または展示場所:東京都千代田区神田錦町 ◆完成年月または展示開始日:2024-01-12 ◆ディレクション・デザイン:高濱史子 + 小松智彦 / 高濱史子建築設計事務所 ◆構造設計:朝光拓也 / 朝光構造設計 ◆照明デザイン:東海林弘靖 / LIGHTDESIGN ◆サインデザイン:TAKAIYAMA inc. ◆ファブリックデザイン:佐藤末季 / Talking about Curtains ◆クライアント:ジンズホールディングス ◆撮影者:太田拓実

選評 村上 要
オフィスの設計は、企業の課題を解決したり、将来のビジョンを体現していたりであるべきだ。仕事柄、JINSの田中仁社長には何度かお話を伺ったことがあるが、従前は駅ビルの最上階にオフィスを構えたことを一因と捉えながら、従業員のクリエイティビティに危機意識をもっていらしかった。美術館を構えたり、サウナで「裸の付き合い」を促したり、可変性の高い空間を設計したりで、創造力を刺激する姿勢に共鳴する。

総評

年々盛り上がりを見せているJCD プロダクトオブザイヤーが今年も開催された。

直接二次審査員にプレゼンテーションをするという方針が変わって4回目になるが、毎年プレゼンテーションする側の熱意が上がっているように思う。このプレゼンテーションで、私たち審査員はその製品について細かく知る事になるのだが、一次審査を通してただけあって、どれもよく考えられ、よく出来ていて、審査は難航を極めてしまう。ここ数年はサステナブルな製品に注目が集まっていたが、今年は今まであった製

品を、さらに新しい使い方に進化させたり、より深掘りをした製品だったり、もっと痒いところに手が届くような製品が多かったような印象であった。グランプリも準グランプリも、とても素晴らしいアイデアに溢れた製品であったが、それ以外の製品も、これに負けない素晴らしい製品ばかりであった。

今後は皆様の活動の中で、ぜひその素晴らしさを伝えていって頂きたいと思う次第です。

審査委員長 JCD理事長
窪田 茂

Grand Prix 1位 LRMSK-T リミット sk 株式会社Luci

私達インテリアデザイナーにとって、材料(素材)は最も大事なアイテムである。

一つの材料の持つ「力」から空間のイメージが広がり、デザインすることが多々あります。

デザイナーにとって、空間のイメージにあった材料を探す場合やはり多くの素材や、新しい素材を知っている事は重要な事です。

初めての審査員で最初は緊張もあり、何を基準に採点しているのか迷っていたのですが、やはり自分が設計する上で、これから使いたい商品(材料)の順番を基準に採点すると決めました。

二次審査に残るだけあり、甲乙つけがたい部分はあったのですが、各社のプレゼンにより気付かされた部分も加味して採点しました。

事務局から指示された採点方法は、実に平等で採点しやすい方法でした。

今回、グランプリを受賞した「Luci」の「リミットSK」は、細かいところまで気配りをされた照明器具でデザイナーの多くがこれから使用する事でしょう。

次に、準グランプリ受賞の「サンズ」の「PLUSMINUS」は、数種類の異なる灯具をベルトに付けられ、そのベルト自体がデザイン的にも使用可能なる点がとても評価できます。

またもう一つの準グランプリ受

RIMiT[®] flex series

簡単カットでフィット
極薄ドットレステープライト

たった6mm以下の薄さでドットレス

point 1 曲がる
point 2 切れる
point 3 ドットレス

R75mm まで曲げ可能
25mm ごとにハサミでカットが可能
光沢面への光の映り込みも美しい

Flex Flex-s

LRF-Tルーチ・リミット フレックス
624 lm/(m・ww)

LRFS-Tルーチ・リミット フレックス S
287 lm/(m・ww)

25mm ~ 4m まで 160 サイズのバリエーション。最長 4 営業日〜特注可。

株式会社 Luci
Luci Co., Ltd. / ルーチ

東京本社：東京都港区赤坂 4-13-13 赤坂ビル 4F 〒107-0052 Tel: 03-6327-7409
大阪支社：大阪市西区南堀江 1-1-14 阪神ビル 2F 〒550-0015 Tel: 06-6110-7520
お問い合わせ総合窓口：info@luci.co.jp Fax: 03-6327-7410

NEW HPリニューアルしました
http://www.luci.co.jp/red/jp/

賞の「不二サッシ+シリウス」の「デザインパンチングパネルシステム」は、光の入れ方で色々なバリエーションを表現できる事にとても感心しました。

JCDの正会員として、賛助会員各社の新商品や進化した商品に常に興味を

持ち、良い商品は進んで設計に取り入れ、応援していくのがデザイナーの努めだと思いました。

審査員 JCD理事／東北支部長
大塚 真司

Second Prize 2位 PLUSMINUS 株式会社サンズ

本製品は、従来の照明システムとは一線を画す、非常に革新的な照明システムであるといえる。最も象徴的な通電素材を内包した布製のリボンによって、照明システムにおける制約ともいえるダクトレールや電気コードから解放され、自由に美しい照明システムを実現している。布製の通電リボンがインテリアに馴染む優れた質感である点も好ましい。また、どこでも通電および設置可能な照明ユニットの固定方法においても独自性と可変性に優れている。リボンの長さや固定方法によって直線的にも曲線的にも表現可能な点も面白い。深い考察と検討の末に導き出されたであろう複数の照明ユニットとリボン、アクセサリによって、あらゆる空間を無限に彩ることを可能にしている。デザインとエンジニアリングが高い次元で結実し、機能と美しさを両立した自由で優れたデザインである。

ゲスト審査員 プロダクトデザイナー
株式会社DESIGN FOR INDUSTRY 北川 大輔



Second Prize 2位 アルビームプラス デザインパンチングパネルシステム 不二サッシ株式会社／有限会社シリウス

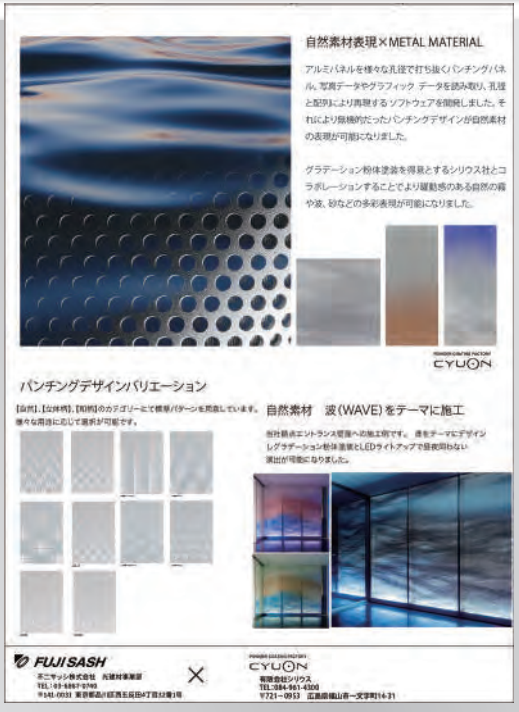
準グランプリに輝いたアルビームプラスは、本来無機質であるはずのパンチングパネルを、見事なまでに有機的に美しく表現、変貌させたとも言える製品である。

写真データやグラフィックデータを読み取り、孔径と配列により緻密に再現するソフトウェアを開発し、和柄や立体柄等を孔径穴の調整のみで表現したシンプルで美しいパネルを製作。そしてそれだけに留まらず、グラデーション粉体塗装やLEDライトと組み合わせることにより、なんと躍動感のある大胆で優美なプロダクトへと昇華させている。

同じパンチングデザインであっても、グラデーション色やライト色を変えるだけでまた多彩な演出が可能となるなど、無限の可能性を感じさせる点も評価したい。

そして賛助企業様同士のコラボレーションという、主催協会としても嬉しい取り組みがみられ、今後の展開にも期待がもてる素晴らしいプロダクトである。

審査員 JCD正会員 白木 ゆみ香



サステナブルストーンパネル もったいない太郎&次郎 ソリユート株式会社

「JCDプロダクトオブザイヤー」の審査に参加するのは今回で4回目です。回を重ねるに従って審査に慣れるかと思っていましたが、毎回、難しさは変わりません。一次審査を通過した製品はどれも実用性、デザイン性に優れたもののばかりです。最近ではサステナビリティ（持続可能性）に対する意識も高く、その中でも「サステナブル・プロダクト賞」にノミネートされた3製品は、どれも甲乙付けがたいものでした。僅差で「サステナブル・プロダクト賞」に選ばれた「サステナブルストーンパネル もったいない太郎&次郎」は、廃材として廃棄される運命だった石材を小さな板に加工し、それをモザイクのように貼り付けたパネル。少し大きめの板を使ったのが「太郎」、より小さな粒を使ったのが「次郎」。パネルに加工する作業は手作業なので、地元雇用も生み出すとのこと。利用後にはさらに再生砕石として路盤材などに使われ、最後は土に還っていくそうです。「物を最後まで使いきる大切さ」を象徴するような製品だと思いました。ユニークなネーミングも魅力ですね。

特別審査員 株式会社日経BP社「日経デザイン」元編集長 花澤 裕二

天然石の廃材を使ったモザイクタイル

廃材のアップサイクルを通じて持続可能な社会に貢献。使用後も再生砕石としてダウンサイクル可能なサステナブル製品です。

ダウンサイクル

アップサイクル

ソリユート株式会社

修成建設専門学校 空間デザイン学科の2024年度トピックス

修成建設専門学校 副校長
イベント実行委員会 委員長 鍵谷 啓太

私たちは明治43年の開学以来、「学生一人ひとりを見つめ、一人ひとりの将来を考える学校」という方針のもと、人材育成と専門教育の二面からアプローチする教育を行っています。

なかでも空間デザイン学科では建築・デザイン理論学習を行う講義、建築士やインテリアコーディネーター、商業施設士、パース検定などへの在学中合格を目指す資格学習、様々な企業団体との連携授業や第一線の建築家・デザイナー講師陣によるプロジェクト型演習授業を通じて、コンセプト立案からデザイン製作、プレゼンテーションまでのスキルを育成、未来の空間デザイナーを社会に送り出すことを目的とした教育を続けています。



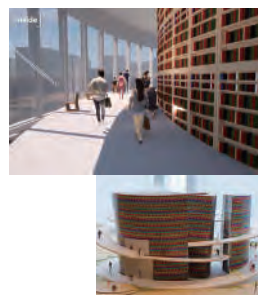
全国の高校生を対象とした修成インテリアスケッチコンテストでは、今年も中村支部長によるJCD-kansai賞を選出いただきました。



2024年の海外研修はスペイン。モダンと歴史が交差する二都市を巡りました。



家具ショールーム学習



学生作品

つくるを 創り 続けて 繋がってゆく。

ものづくりをする人を、創り（育成）続けて百余年。
その信頼と実績が、社会との強い繋がりをつくっている。
そして、この想いは未来へと。



学校法人 修成学園
修成建設専門学校
一級建築士受験資格認定校 職業実践専門課程認定校

■建築学科 ■建築デジタルデザイン学科
■空間デザイン学科 ■建築施工学科
■土木工学科 ■建設エンジニア学科
■ガーデンデザイン学科 ■建築・デザイン学科（夜）
■専科2級建築士科 ■専科1級建築士科

● 新入会員紹介 ●

春 名 伊 佐 也 Haruna Isaya

株式会社乃村工藝社



空間デザイナー。1980年新潟生まれ、金沢美術工芸大学修士課程修了後、2006年に株式会社 乃村工藝社に入社。入社後はJCD関西支部長でもある同社中村裕輔氏の下、幅広いジャンルの設計に携わる。現在は商業施設の環境デザインを中心に、物販店・飲食店・ホテル・サイン計画等を担当。代表作として「HEP FIVE TAMLO」「HEP FIVE モニュメント」「SOLANIWA Beauty & Wellness」「Neue」「大阪ベイトワ環境設計」等がある。2022年～2024年 金沢美術工芸大学環境デザイン科非常勤講師を担当。



株式会社 乃村工藝社
〒556-0011
大阪市浪速区難波中2-10-70
パークスタワー 19F
TEL: 06-6649-3331
MAIL: i.haruna@nomura-g.jp

サンゲツがめざすのは、
人にも環境にも
やさしい空間。

サンゲツは「空間創造」を通じて社会課題の解決に取り組み、
社会価値の創出につなげていくことを目指しています。



サンゲツ 関西支社センターオフィス

sangetsu

関西支社／大阪市中央区本町4-3-9 本町サンケイビル15F Tel.06-6245-2301
株式会社 サンゲツ www.sangetsu.co.jp

JCD Kansai
<https://www.jcd-kansai.jp/>

JCD Kansai
<https://www.jcd-kansai.jp/>

水から、
ドラマチックに。

水にしか作れない感動がある。
水にしかできない癒しがある。
24時間365日、今日も世界のどこかで、
SANEIは歓びの瞬間をつくっています。

SANEI 株式会社 www.sanei.ltd

WIW KOBE 2024 USD-Oデザインカンファレンストーク&モノ・空間デザイン学生プレゼンテーション

統括委員長 斉藤 俊二

USD-Oデザインカンファレンストーク&モノ・空間デザイン学生プレゼンテーションは、デザイン系学生・教員・研究者・インテリアデザイナー及びクリエイターが一堂に会し、アウトプットに役立つ知見を広げるためのデザイン交流を目的とし、インテリア&空間デザインの向上並びに産業の活性化に向けた社会貢献活動として、数年前から毎年開催している恒例のデザインイベントです。

今回のテーマは『世代を超えるデザイン』。今！をどう感じて、この先の未来へ何を継承すべきか、を実社会で活躍しているデザイナー、デザインを教える教員・学ぶ学生達が様々な視点からプレゼンテーションを行い、よりよい暮らし方への実現に向けたこれからのデザインについて、身近なアイデアから夢のある提案また実績例などのアイデアを持ち寄り、多方向からのプレゼンテーションを行いました。

第一部：デザインカンファレンストーク（デザイン新常態15th）では、USD-O加盟団体の専門家による



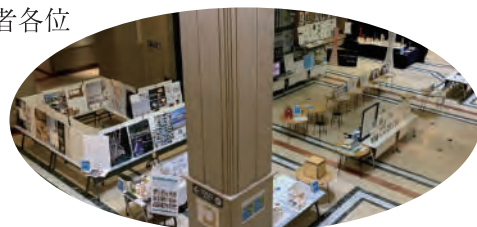
日時：2024年6月1日(土)12:45～18:30
場所：HDC神戸
来場者数：150人(オンライン参加含)
主催：JID(公社)日本インテリアデザイナー協会
共催：USD-O大阪デザイン団体連合
後援：神戸市、(株)スペース、メガソフト(株)及び各デザイン・プランナー系多数団体

トークセミナーを開催。JCDからは、統括委員長である斎藤（USD-O会長）が登場しました。

第二部：モノ・空間デザイン学生プレゼンテーションでは、8大学の学生からインテリアや空間デザイン・建築デザインまたプロダクトデザインなど、テーマに沿ったあらゆる方向のデザイン提案を発表してもらい、デザイン系団体専門家・大学教員によるコメントーターから講評を受けました。学生達がコメントーターからのプロとしての講評を聞く真剣な姿がとても印象的でした。

終了後は会場近くのオープンビアガーデンでの懇親会を開催。プレゼンターのデザイナー・教員・学生達が、それぞれ今回のテーマであった 世代を超えたデザインについてのコミュニケーション会を、帰りの時間も忘れて行いました。

毎年恒例のイベントですが回を重ねるごとに参加者も増えており、インテリアや空間デザインでの課題解決への提案に対してとても有意義なイベントであるとのコメントを参加者各位より頂きました。



残暑払いビアパーティ「さらば猛暑!」

NEXT 委員会 委員長 高橋 健太

運河沿いのタグボート大正という施設内にあるレストラン、「ピッツェリア ダ ドッツ」を会場として、イベントが開催されました。時より横を流れる運河にボートが往き来し、大阪市内にいながらリゾートにきたようなとても心地よい雰囲気の会場でした。

同イベントは、3部構成で行われました。

第1部は支部集会で、JCD関西支部の中村支部長から開催挨拶と新入会員の紹介、支部の活動について報告がありました。

第2部は「NEXT GENERATION」デザイナーとメーカーの新しいカタチ vol.3で、デザイナーとメーカーのコラボレーションの事例紹介が3つ発表されました。

JCD関西支部の鍵谷委員からは、ご自身が副校長で空間デザインの教員もされている修成建設専門学校の学生が、メーカーとコラボレーションして黒豆パン店の空間デザインに携わられた事例について、斉藤統括

日時：2024年9月6日(金) 18:30～21:00
場所：タグボート「ピッツェリア ダ ドッツ」
来場者数：42名

委員長からは、大阪工業大学で空間デザインを学ぶ学生が日常利用する施設の課題を空間デザインで解決するプランを作成し、株式会社スペース様がサポートして実施設計までコラボレーションで作成した事例を、東理事からは、デザイナーであるご自身がメーカーと共同開発した商品の突板について発表がありました。

第3部は懇親会となります。席をまわられ順に名刺交換する方や、会話を楽しむ方など多様な交流で、親睦が深められる機会となりました。

お店の大きさも丁度良く一つにまとまった、そして暑さも忘れることができたイベントになりました。



冷房は止めた！
大盛り上がり！

2024JCDKansaiクリスマスイベント「たまには気軽にVOXX NIGHT」 NEXT GENERATION TALK NIGHT デザイナーとメーカーの新しいカタチ vol.4

イベント実行委員会 委員長 鍵谷 啓太

JCD関西支部の12月恒例行事であるJCDkansaiクリスマスパーティが2024年12月6日金曜日の夕刻より、肥後橋のライブカフェ・Cafe VOXXで開催いたしました。

夜の冬空を見上げるオフィス街の地下にある店内に入れば、多くのJCD会員様、賛助会員様、ご関係者様で満員の会場です。もちろんライブステージやビンゴゲーム大会などもあり、たいへん盛り上がりながら全員で往く年をねぎらい、来る年の期待に満ちあふれたイベントとなりました。

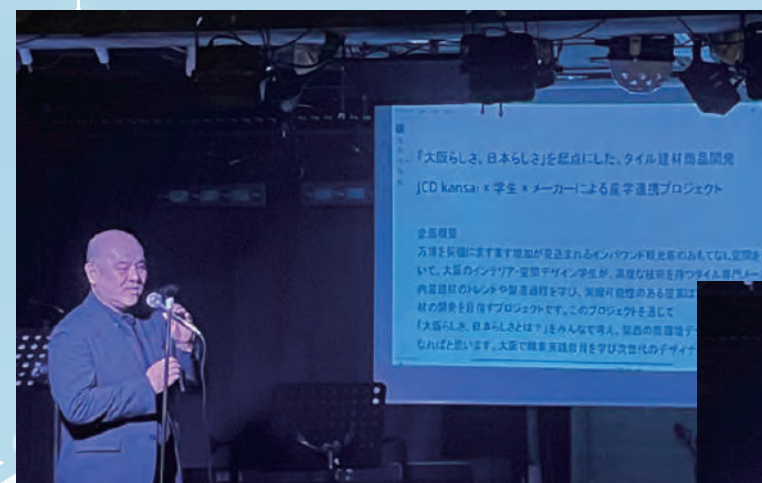
第一部:Next Generation Talk Night

恒例となっております賛助会員企業の皆様による新商品説明会では、今年も多くのお客様にご登壇いただき、熱の入ったプレゼンテーションを聞かせていただくことが出来ました。

続いて修成建設専門学校(全国賛助会員)より全国の高校生に向けたインテリアデザインコンクールについてのご紹介をいたしました。今回で第16回となる同コンクールでは2023年度よりJCDkansai賞を特別賞として設定し、中村支部長には審査委員としてご参加頂いております。

続いて「デザイナーとメーカーの新しいカタチ vol.4」として、2025年度へ向けてJCD関西支部がコーディネーターとなって様々な建材メーカーと、次世代のデザイナーを目指すデザイン学生とのコラボレーションをバックアップする活動についての中間報告を行いました。

株式会社日東製陶所様、ソリュート株式会社様との商品活用アイデア検討企画の計画発表の後、2025年度に本格的に開始する、株式会社ダイナワン様と空間デザインを学ぶ学生によるタイル商材開発の取り組みについて、スライドを交えながら発表を行いました。



日時: 2024年12月6日(水) 18:30 ~ 21:30
場所: ライブカフェ・Cafe VOXX
来場者数: 66名(賛助会員30名、デザイナー 31名、一般5名)

いよいよ2025年は大阪に、55年ぶりとなる万博がやってまいります。これを契機にますます増加するインバウンド観光客と、関西のデザイナーやメーカーがもっと元気になるよう、「日本らしさ・大阪らしさ」を起点にしたタイルのデザインを作りたいと願うダイナワン様の熱意に共鳴し、大阪でデザインを学ぶ学生たちがメーカーとともに考え、実際に試作品を製作して特注品のバリエーションとしての商材開発を行うというプロジェクトです。これについては今後もこの紙面等におきまして経過をご報告いたします。

第二部:ライブイベント

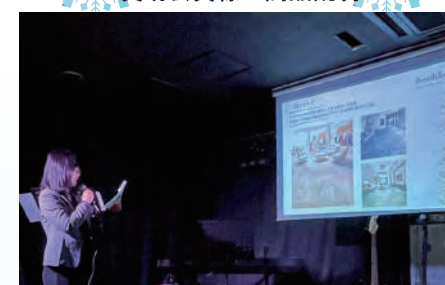
今回は会場がライブハウスということもあって音響や照明もバッチリ!バンドも豪華二組によるイベントとなりました。

JCD関西支部が誇る、「JCD West Band」による円熟のステージと、ゲストとしてお迎えした中小企業診断士の皆さまによるバンド、「奏でる診断士」の白熱のライブパフォーマンスによって大いに盛り上がり、楽しく笑顔で一年を締めくくる、そんな一夜となりました。

第一部の「Next Generation Talk Night デザイナーとメーカーの新しいカタチ vol.4」にてコラボ内容の発表



賛助会員様の商品説明



東理事の乾杯の音頭



奏でる診断士 5曲熱唱



JCD WEST BAND 7曲熱唱

デザイナーとメーカーの発表

JAPAN SHOP 大阪 2024

統括委員長 齊藤 俊二

昨年から大阪でのジャパンショップ開催が2年目となり、東京とは一味違う大阪らしさが感じた展示会が行えました。昨年の出展形態に引き続き、JCD関西だけでなく加盟しているUSD-O大阪デザイン団体連合としての出展として、大阪で活躍する様々なジャンルのデザイナーの作品のアピールを目前に迫った大阪・関西万博への関連に繋げて行ける様な企画展示としました。

ブーステーマは「NEXT GENERATION」未来をひらく次世代デザイン

テーマに沿った次世代型デザインを表現するため、昨年も協力頂いた㈱a.c.c.の「アクアポニックス」。循環型社会の形成に合った企画で、金魚のフンを糞とした植物が生成する過程を、水槽を使った流水型ディスプレイ展示で表現。来場者の目線に即飛び込み、とても興味深く観覧して頂けたことがとても印象的でした。



日時：10月17日(木)～10月18日(金) 10:00～17:00
場所：インテックス大阪
参加者数：2日間 9,800人(会場参加人数)
出展参加団体：USD-O加入6団 JCD, JIDA, JID, SDA, DSA, JPA
協力：株式会社浅沼組、株式会社a.c.c

もう一つのサステナブル表現として、(株)浅沼組の「還土(かんつち)ブロック」。セメントなど人工素材を使わず、土と水のみで固めたブロックで、文字通り土に還る素材のため環境負荷の軽減を図る建材をデザインした展示で、こちらも来場者への興味を引くとても良いPRとなりました。

出展した6団体が交代でブース当番立ち、来場者との未来へ向けたデザインへのコミュニケーションが図れたJAPAN SHOP大阪2024となりました。

第16回 大阪市あきないグランプリ

評議員 山田 悦夫

店舗の最大の特徴はわずか8㎡の小さい店ながら茶室をイメージした内装でプロの料理人が使用する包丁を122本陳列し、包丁の特長を生かしたディスプレイになっている。内装は木質空間でまとめている。アプローチでは歩行者に見やすい包丁を宙に浮かしたディスプレイをおこない、歩行者に見やすく店内に入りやすい演出がされている。極小店舗としてデザイン性の高さを評価し今年度の商いグランプリのJCD 賞として選定いたしました。



JCD賞を受賞した「實光刃物 裏なんば店」



受賞者の株式会社實光 裏なんば店長さんと 中村支部長

受賞店舗

グランプリ《大阪市長賞》

本まつばや

準グランプリ

大阪市商店会総連盟理事長賞

天満天神飯店

大阪商工会議所会頭賞

米Lab 百福

特別賞

一般社団法人日本商環境デザイン協会JCD賞

實光刃物 裏なんば店

一般社団法人日本空間デザイン協会DSA賞

藤次郎ナイフギャラリー 大阪店

大阪市高速電気軌道株式会社

Osaka Metro賞

永楽堂 寿浩

関西エアポート株式会社

関西エアポート賞

ウメダチーズラボ

優秀賞

応募部門2部門から約46店舗を選出

クリエイティブプレイス大阪 5月13日グランドオープン



オープニングイベントお披露目weekを開催

期間中はクリエイティブプレイス大阪をご見学いただけます。

※要予約

期間：5月26日（月）～30日（金）

29日はトークイベントを開催！

場所：株式会社アダル 大阪支店
大阪市中央区瓦町4丁目7-8本町東栄ビル4F



はたらく家具をつくる

ADAL
ADVISER FOR AMENITY LIFE



「THE SHOW」をコンセプトに 提案型オフィスとして再構築

福岡・東京に続き、大阪支店にて“快適なワークプレイス”を実践し提案するCREATIVE PLACE OSAKAをオープン致しました。新たな大阪支店のコンセプトは「THE SHOW（みてってや）」。
家具だけでなく、人が存在して初めて空間が成り立つという考えから、「コミュニケーションシーン（プロセス）が見える」をデザインし、人が働き共想していく場所を再構築しています。



LUMINABELLA

LUMINABELLA OSAKA Showroom
大阪府大阪市中央区瓦町3-4-15 瓦町SFビル1F
tel. 06 6202 8080

LUMINABELLA TOKYO Showroom
東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター 4F
tel. 03 5793 5931

